

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス子笑		
○保護者評価実施期間	2024年11月1日		2024年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	2024年11月1日		2024年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 26日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮について。	児童一人ひとりの障害特性や学習スタイル、発達段階に合わせて、個別と集団活動のスペースを子笑の特色であるTEACCHプログラムを活かし安心できる環境を整えています。また、自立課題等は将来を見据えて個別に作っています。新規児童や成長に合わせて自主的に取り組めるよう環境設定や課題等の見直しを行っています。	今後も、日々の行動観察、記録、分析をもとに自主的にプログラムに取り組めるよう環境設定や視覚提示、課題等の見直しを行っています。 ※事業所が2階にあるため、自立で階段の利用可能児童を受け入れてあります。階段左右の手すりを設置しています。
2	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているかについて。	放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」で示す支援内容を踏まえて、児童一人ひとりの個性を重視した支援計画を作成しています。作成する際には、児童に合わせてアセスメントツールを活用しています。	継続して、計画を作成→実行→行動を評価・分析→見直しして新たな計画を作成するPDCAサイクルを職員全員で行ってまいります。アセスメントツールの活用を、さらに取り組んでまいります。今後も、保護者のご意向を踏まえて、日々の共通理解に努めます。
3	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されているかについて。	活動プログラムは、一人ひとりの障害特性や学習スタイル、発達段階、興味関心、できること、芽生え等が違うため、個別活動と集団活動を組み合わせるよう個別で設定しています。毎日のプログラム準備はPDCAサイクルを大切にしています。	今後も、個別活動（プリント課題・自立課題・コミック会話等）、個別と集団活動（創作課題・運動等）、集団活動（グループワークやSST等）、余暇活動（ゲームや手芸等）行事（誕生日会、夏祭り、ハロウィン、クリスマス会、風揚げ、豆まき等）、地域資源の活用等のプログラムの工夫を行ってまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童館との交流や、地域の他こどもと活動する機会について。	長期休み等を児童館や科学館、動物園等に外出し地域の他児童と関わる機会があります。そして、地域の他児童と活動する機会については、児童の安心・安全を第一に考えて設けていないことが現状です。しかし、インクルーシブ社会の構築や、将来を見据えて子笑として検討すること自体を課題としたい。	はじめての場所や人に対して、混乱し不安定になる児童もいるため、地域の他児童と活動する機会については、十分考えた上で組み立てる必要があります。このことを踏まえて、一人ひとりの障害特性等に合わせて、段階を経る過程において地域資源を活用した取り組みを行っていきたくと考えます。
2	保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会などを通じた家族への支援について。 きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会を通じた、きょうだいへの支援について。	アンケート調査（開催有無・有の場合の希望内容）を実施した結果、必要なしとの回答が多くありました。理由は普段から職員と伝え合いができていて、開催があっても仕事で参加できない等でした。保護者の意向も踏まえてのことですが、保護者会を通して子笑でできることを課題としたい。	今後も開催有無のアンケートを実施していきます。また、必要に応じて子笑の特色であるTEACCHによる構造化支援や非常時の対応等について説明する等、保護者のニーズに合わせて交流の機会を含めた保護者会等の開催等を検討していきます。
3	家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等について。	児童一人ひとりの障害特性や理解の仕方、発達段階が違うため、必要に応じて個別で家族支援をしています。また、子笑に通われるご家庭での保護者の対応からトレーニング等や集団研修会等が必要だと感じられないことが要因の一つであります。課題とすれば、家族支援プログラムや集団研修等の必要性の把握をより行うことだと考えます。	今後も、日頃から児童の状況を保護者と伝え合い、児童の健康や発達の状況について共通理解に努めます。また、地域での家族に対してのプログラムや研修会がありましたら、情報提供をしていきます。